

議会だより むらやま



写真/

富本小学校5年生 伝統の大黒舞
むらやま教育の集いにて

<http://www.city.murayama.lg.jp> 携帯からはコチラ→



対談

SMILING FACE TALK



あけましておめでと
うございます。新しい
年を迎え皆さんお喜び
のことと存じます。

—お忙しいところ議

長との対談にお越しく
ださいましてありがと
うございます。お二人
が農業をすることにな
った動機を教えてください。

戸沢在住

三浦 由佳さん



大槇生まれ。

夫・子（小3・小1の2人）・
両親の6人家族。実家にて
両親と夫の4人で農業を営
んでいる。

（高谷）私は大学を卒業し、地元に戻って会社員として勤務をしていました。そんな中、両親が規模拡大路線から二人で出来る程度に規模縮小しようかと話しているのを聞き、両親も考える年になったと思い、「二人が今まで頑張ってきたのを終わらせるのはもったいない。このまま終わらせるわけにはいかない。」との考えにいたりました。

（三浦）同じ境遇ですが、会社勤め中に子どもの出産を機に退職しました。同居をし、家の手伝いをしながら農業は楽しいなと思いましたが。そんな中、両親が規模縮小していく話をしており、今まで培ってきたものを残したいという気持ちになり家業を引き継ぎました。

一杯の状況ですが、面積も増やしていきたいし、施設などを利用し、子どもとの時間を大事にしていきたいと思っています。

（三浦）お二人とも結婚をしていますか、旦那さんは農家ではなかったのですか。

—これからやってみたいことは。

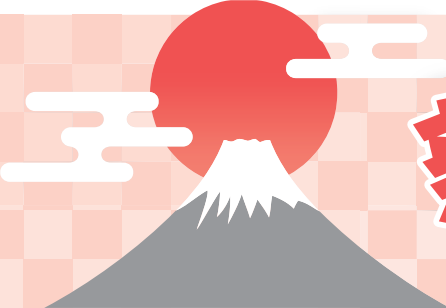
（三浦）就農して3年目なので覚えるのに精

（高谷）本人が言うには農業がわからなかったから出来た。町に住んでいたのが新鮮だった。村山だから農業が出来たと言っています。

（三浦）その気持ちは本当にわかります。

（高谷）本人が言うには農業がわからなかったから出来た。町に住んでいたのが新鮮だった。村山だから農業が出来たと言っています。

（高谷）季節季節で両親と4人でしています。新しい分野までは今は考えていません。現在米がメインでスイカ・さくらんぼです。



新春突顔

—市の農業政策について、足りないものはありますか。

(三浦) 田んぼが小さいと作業効率が悪く水の管理や機械効率が悪いので、ほ場整備を進めて欲しいですね。

(高谷) ほ場整備も年数がかかり過ぎで、スピードを上げて対応して欲しいです。

(議長) 高齢化や後継者不足の問題もあります。スピードをもって対応すべきですね。鳥獣被害はありますか。

(高谷) 西部地区に住んでおり、ハクビシン

にハウスのマイカ線を食いちぎられ、ビニールも穴が空けられます。

(三浦) 私も同じ状況で農作物以外もかなりの被害となっています。

(議長) 村山市の特産物についてはどうでしょうか。

(高谷) 村山市は何でも作れるけど、市をあげてすごいと言うメインの物がないです。

(三浦) 市の特産物を作って欲しいですね。東根はさくらんぼ、河北はイタリア野菜、村山はそういうものがない。地域によってバラバラです。

(高谷) 市内全地域を



第25代議長 長南 誠

大久保在住 高谷 理香さん



大原生まれ。大学卒業とともに帰省した。夫・子(中3・中1の2人)・両親の6人家族。実家にて両親と夫の4人で農業を営んでいる。

あげて盛り上げていけるものがあるといいと思います。

(議長) 少子化や人口減少の問題もあります。残念ながら、市外への転出が多い状況です。

(高谷) 大久保地区でも親たちだけが残っている一人暮らしや二人暮らしの世帯が多くな

ってきてました。便利のところには家をもつのはうらやましいとも思いますが、残された家と家族が心配です。市としての政策も必要なのではないでしょうか。

—女性の立場から議会に對しての要望・意見はありますか。

(議長) 子育て中のお母さんから、議会の傍聴に行ってみてほしい

もいいか、と聞かれたことがあります。

(高谷) 議会については、傍聴に行ったことはなく、新聞で読む程度です。あまり考えたことがありませんでした。

(議長) 議会では、年に2回4ヶ所で議会報告会を開催し、意見交換をしています。若いお母さんたちは、参加は難しいですね。

(三浦) 保育園の保護者会総会に市長がいらつしゃった時には、大変盛り上がりました。みんな意見を持って

るんです。

(高谷) 若い人は意見を持っていきますが、発言する機会がないので行事とタイアップしてもらおうと良いのではないのでしょうか。

(三浦) 一度、議会報告会に参加しましたが、緊張してしまいました。

(高谷) 同年代の人たちがいると意見も言いやすくなります。

(議長) 若い方たちに、いかに議会に興味を持って頂くかを議会の抱える課題として取り組んでいきたいと思

—本日は、ありがとうございました。

12月1日から12月15日の会期で12月定例会が開催され、条例6件一般会計補正予算2件その他の議案9件が原案のとおり賛成多数で可決しました。

その結果、一般会計歳入歳出それぞれ2243万円を減額し、総額133億2137万円となりました。

条例

・村山市市長等の給与の特例に関する条例
 (市長、副市長の給料を3ヶ月間減額するため)の制定

(賛成多数で可決)

・村山市保育所設置条例の一部を改正する条例
 (西郷・ちぐさ及び富本の各児童センターについて、村山市立認定こども園へ移行するための改正)

(全会一致で可決)

・村山市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例
 (法律施行令及び県の

補助金交付規程の一部改正に伴い、本市の重度心身障がい者医療の自己負担上限額を変更するための改正)

(全会一致で可決)

・村山市児童館条例を廃止する条例(本市の児童センターが認定こども園へ移行することに伴い、条例の廃止を行うもの)

(全会一致で可決)

・村山市特別職に属する者の給与等に関する条例の一部を改正する条例(市長等及び議員の期末手当の支給割合の改正)

(全会一致で可決)

・村山市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
 (県人事委員会の勧告等を踏まえ、勤勉手当の改定並びに扶養手当等の改定)

(全会一致で可決)

その他

・財産の無償貸付について(保育施設用地と

してアートチャイルドケア(株)に20年間無償で貸付けるもの)

(賛成多数で可決)

・和解及び損害賠償の額を定めること(村山市民間立保育所・認定こども園整備に係る事業実施候補者の決定を取り消したことによる損害の和解、損害賠償の額を決定するもの)

(賛成多数で可決)

指定管理者の指定

・村山市基点レクリエーションセンター他6施設を平成30年度から3年間指定管理者の指定が決定するもの。

(全会一致で可決)

請願

・「若い人も高齢者も安心できる年金制度」を国の責任で創設するための意見書を求める請願

(賛成少数で不採択)

議員発議

・統合保育園事業者選定調査特別委員会の設置について

(民間立保育所・認定こども園整備事業者の選定について要項に基づかない決定を行ったことについて、結果及び原因を究明するため)

(賛成少数で否決)

主な補正予算

除雪委託料 6千万円
 幼稚園子育て支援事業 206万円
 東京オリ・パラキャン
 プ誘致事業 200万円
 小中学校要保護及び準
 要保護就学援助費 309万円
 新設保育施設整備事業
 △1億3822万円
 新設保育施設整備事業
 賠償金 407万円

審議結果報告

(12月定例会において賛否の分かれた議案についてのみ記載しました)

議員名	議案等の名称	議決結果	市政・公明クラブ						日本共産党 村山市議団			改革クラブ			無会派			賛成	反対
			矢萩浩次	高橋菜穂子	石澤祐一	森一弘	大山正弘	茨木久彌	海老名幸司	川田律子	中里芳之	犬飼司	菊池大二郎	結城正	菊池貞好	佐藤昌昭	秋葉新一		
市長提出議案	条例 村山市市長等の給与の特例に関する条例について	可	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	×	○	議	10	5
	予算 村山市一般会計補正予算(第5号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	14	1	
	その他 和解及び損害賠償の額を定めることについて	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	14	1	
請願	第4号 「若い人も高齢者も安心できる年金制度」を国の責任で創設するための意見書を求める請願	否	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	議	7	8	
議員発議	第5号 統合保育園事業者選定調査特別委員会の設置について	否	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	議	3	12	

正副議長及び監査委員は会派に属しません。議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。

可 = 可決 否 = 否決 ○ = 賛成 × = 反対

代表質問

市政・公明クラブ 大山 正弘 議員



全国学力テスト 指導力向上が核

Q 平成29年度に行われた全国学力テストの結果、本市の現状と課題を伺う。

A 小学校は、県全体と算数が苦戦し、中学校は、国語が上昇し良好。数学も昨年から見ると上昇傾向だ。ただし、これは市全体を平均した場合で、小学校でも好成績を上げている学校もある。教育委員会としても各学校の取り組みを支援している。来年度に向け教師の指導力向上を核として思い切った算数、数学学力向上プロジェクトを検討している。

幼児保育費用 市独自の支援策を継続

Q 幼児保育費用に関する本市の方針は、

A 子育て支援として本市は、平成26年度より第1子からの保育料半額助成を独自に実施してきた。現在幼児教育・保育の無償化は正式な国の方針を受

けていない状態であるが、3歳から5歳児は2020年までに段階的な無償化が検討されている。今後国の方針によるが、市独自に実施している子育て支援策は継続する。

公立病院分娩休止 安心な出産環境を

Q 北村山公立病院産婦人科分娩取り扱い休止について伺う。

A 理由として、産婦人科分娩担当医師である院長が来年3月末をもって定年退職、助産師不足などで十分な医療体制を維持できなくなったことが要因である。現在日本医科大学から非常勤医師の協力を得ながら年間100件、本市は13人が出産している。

今後の方針と対応 については

Q 今後の方針と対応については

A 来春以降からは、公立病院では妊産婦健診や婦人科検診を行い、蔵王協議会に加盟する医療機関で出産

できるよう連携し、安心して出産できるように努力する。地域住民がより身近で、安心できる出産環境の確保、分娩取り扱いの継続と不可欠な常勤医師と助産師の確保に向け、北村山三市一町が一丸となつて推進していく。

バラ回廊 平成32年の 完成を目指す

Q バラ回廊・ラウンドアウト交差点の計画内容と完成は。

A 高速道路から村山駅西まで「バラ回廊」ロードについては今年度用地買収を行い、平成30年度に工事を開始し、高速道の開通見込みに合わせて平成32年



平成32年度完成予定のバラ回廊

度の道路の完成を目指す。

米の生産調整廃止 需給調整目標設定

Q 平成30年度米政策における市の取り組み方について伺う。

A 国による転作廃止で生産目標配分が変わり、山形県も全国の需要見通しに基づいて県・各市町村の主食米の生産の目安の数値を算定し各地域農業再生協議会に提示する方針だ。本市も地域農業再生協議会において自主的な需給調整の目標を定め、各農家に協力を要請していくこととしている。

農家の青色申告を推進 するには

Q 農業経営における青色申告推進は。

A 経営分析には欠かせないものであり、収入保険制度創設に伴い青色申告が加入の条

件とされた。本市としても青色申告の普及と加入促進を呼びかけていく。

楯岡商店街の歩道除雪 有償ボランティア実施

Q 中心市街地の、歩道除排雪についての課題と方針、計画を伺う。

A 商店街の歩道除雪は、住民の高齢化により困難なところがある。特に空店舗前の歩道除雪が問題で、楯岡商店街、有償ボランティア団体、県・市との四者協働で今期試験的に除雪を5回程度実施する。市は県道の除雪はできないので、県のマイロードサポート制度の補助を受ける。



期待される歩道除雪

代表質問

改革クラブ 菊池大二郎 議員



有害鳥獣対策事業について

Q 従来のサルに加え、イノシシなどの被害が加速。農作物被害のみならず人的被害がいつ発生してもおかしくない。緊急性を認識しながらも具体策を講じられていない。まずは、現状を打破するためにも庁内での横断的なチーム作りが必要では。また、村山産業高校・電子情報科の生徒らが考案した鳥獣駆逐装置をイノシシ被害の多い楯岡、大倉、袖崎に設置し実証実験を行ってみたい。いずれにしても新しい視点での対策が必要。



超音波による駆逐装置

A 他の優先事業を踏まえると鳥獣被害対策についての重要度は低い。産業高校とコネクタを取り、可能性について担当課に探らせる。

広報戦略について

Q 必要とされる情報を的確に、ニーズに合った情報を幅広く、関心のない方々を振り向かせるような興味深さ、本市に追い風を生むような奇抜な話題作りなど広報には今までの戦略的な視点が必要。こうした分野に

対処すべく若手や希望する職員らによる広報戦略チームの設置を検討しては。また、買い物バス運行実証事業を行っているが、バス車内空間も広報に使えるのでは。

A 若手職員らを中心にプロジェクトをもとに効果的な情報発信を行う。

※ハッシュタグ機能やPRエリアを絞った広報対策について年度内にまとめた。

※ハッシュタグとは、同じようなメッセージの収集・検索を可能とするもの。

廃校利活用事業について

Q 県立楯岡特別支援学校の入学者は既に100名を超え、あと数十名増えれば飽和状態。政府が示した幼児教育無償化に関連して、障がい児保育の視点も重要。切れ目のない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実が一層求められる中で、旧楯高跡地利活用案として、障がい者支援の拠点づくりはどうか。

A 楯岡特別支援学校の空間一部利用について考える余地はあるが、市民会議案を重視して検討を進める。

Q 11月のオリ・パラ推進室によるブルガリア訪問の成果は。今回立ち上げられたロースプロジェクトとは異なり、本市の歴史文化・食文化を当国に持ち込む、売り込むという戦略も必要ではないか。また、楯岡特別支援学校がオリ・パラ教育実施校として国の認定を受けており、パラ関係の事業も期待。



ホストタウン事業の動画配信

Q 来年、大わらじ奉納だが観光立県を標榜する県と資金的・広報的な連携を考えては。浅草寺の宝蔵門には楯岡馬場出身の彫刻家・村岡久作氏が制作した仁王像もある。こ

Q 今後の観光客の視点に立ったサービ

スや環境整備を考える上で通年型のワンコインタクシーの検討、観光無料周遊バスのコースについて道の駅やホースターデンなどの追加が必要では。

A 大わらじ奉納は県も認識しており、県との連携を考えたい。

Q 東沢バラ公園の構造自体やバラの見せ方の改良が必要では。最少の金額でバラの品種を変えていきたい。

A 今後の観光客の視点に立ったサービスや環境整備を考える上で通年型のワンコインタクシーの検討、観光無料周遊バスのコースについて道の駅やホースターデンなどの追加が必要では。

Q タクシーとバスについては利用者数を踏まえ検討したい。

A 駅西開発事業について

駅西ビジネスホテルのオープンに際し、本市にとつての情報拠点となるよう大いに期待。情報誌の設置やレンタサイクルサービスの拡充も含めた協力、連携を要望。

ここが聞きたい 一般質問

Q & A

本定例会の一般質問は
12月6日・7日に5人の議員が行いました。
質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

※一般質問のQ & Aは議員の原稿をそのまま掲載しています。



安心で安全なまちづくりを

矢萩浩次 議員

Q 身近な環境問題、荒れた耕作放棄地崩壊した空き家と獣のすみ家・野良猫など、各地域だけでの対応にも限界がある。美しいまちづくりのため、市として一歩踏み込んだ対応を望む。

A 周辺住民の切実な問題と認識、当事者での解決が基本だが難しく苦情も多々寄せられる。調査の上、間に入り適正な管理を粘り強く指導していく。

Q 本市の防災力、防災・減災について市の方針は。

A 市民のため重要であること認識し、限りある財源の中で重要度を考慮し対応する。

Q 消防署の問題点及び今後の広域消防の考えについて。

A 耐震など改修が済み防災拠点の役割

は果たせるが、大地震や浸水害などの被災の懸念高規格車輛の格納・ヘリポートや消防操法のスペース確保など問題も抱え今後検討を要する。消防の広域化は一度頓挫しているが、時代に応じ今後進

むべき道と考える。定員削減も可能となる。
Q 消防団の団員確保は。
A 個人装備の充実など魅力のある、若者に支持される消防団を目指す。



村山市防災の日 防災訓練

※1 サイトとは、インターネット上で情報やデータのある場所。

※2 GCF（ガバメントクラウドファンディング）とは、自治体による企画に共感した方から寄附を募る仕組み。

Q ふるさと納税^{※1}サイトを2つ使っている意図は何か。

A 「ふるさとチョイス」は1300の自治体が利用し多く見られている。「さとふる」は200程度の自治体なので注目されやすい。委託料は前者が年間10万円、後者は包括的な委託で寄付額の12%である。

Q 返礼品のおまけとして木札を送っている。他市では自由に文字が選べるが、当市は納税者名だけである。改善は出来ないか。

A 多様な事務量の発生が予想されるが検討していく。

Q 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用できないか。

A 返礼品がないことから営業活動がし

にくい点があるが、企業から申し出があれば前向きに検討する。

Q ^{※2}GCFを活用し、大わらじ奉納実行委員会負担金に繰り入れられないか。

A 宗教の関連からも難しいが、荒町の皆さ

んの意向を尊重し相談があれば対応していく。

Q 職員数は、現状住民千人当たり11.2人である。市長は10人を基本と考えているようだが、考えは変わらないか。

A 目標に向かって変わらず努力していく。



平成 20 年の大わらじ奉納



財源確保に向けてどう考える

犬飼 司 議員

Q 第7期介護保険事業が平成30年4月から始まるが具体的な施策を問う。①前計画の評価と課題について。②次期3年間の計画について。③平成29年から始まった総合事業の実施状況について。④介護保険法「改正」による影響について。

A ①5期から6期にかけて施設が増えている。保険料は4600円と県内で最下位だが健全な運営が出来た。②前期でやり残した小規模施設の設定や広域の施設入所も増えていることから給付の増加が見込まれる。保険料の若干の上昇は否めない。③総合事業は現行どおりに行った。7期は現行どおりや緩和型など介護事業所と調整しながらやりたい。④



介護は家族だけでなく社会全体で支える村山市に

川田 律子 議員



改修されたクアハウス基点の客室

用が伸びるとは想定外で対応が追いつかないのだと思う。今後の国の動きに注視していく。

Q 度重なる各国訪問の来市でクアハウス基点の経営や働く人達への影響、今後の施設整備について伺う。

A 経営状況は赤字である。常に改修は必要でトイレの改修を予定している。入浴料金の値上げも検討段階である。

入浴料金の値上げの話もある。私は反対だが市長の考えは。



生活保護行政の改善を

中里芳之議員

Q 本市の生活保護率は0・23%（県0・69%、全国1・69%）と極めて低い。生活保護が憲法で保障された権利として周知される必要がある。

A 相談に来た人は、字を見るより話を聞いて判断していると思う。

Q 来年度国保の県単試算を見れば、国保税引き下げは十分可能で

A 今のところ考えていない。

Q 河西地区（葉山中学区）の児童数の減少は、推定より5年から10年早く進んでおり、各小学校の小規模化が心配されている。保護者の不安にどう向き合っているか。

A 少人数の良さを活かした授業に取り組んでいる。政策として地域のダメージを考慮し統廃合は行わない。

Q 親世代は、平成22年のアンケートで、約70%が2から3クラス規模を希望し、統合はやむを得ないと回答していた。小中学校の小規模化が転出の理由となり、市長が進める子育て世帯の定住対策と逆行しているのではないか。

A 地域からは、統合反対の声があがっている。保護者から統合の希望があれば検討

くりだ。改善すべきではないか。

A そういう方向になるかもしれないが断定はできない。

Q 中学生以下の子どもたちに対するインフルエンザ予防接種費用の助成を。

A 今のところ考えていない。

Q 河西地区（葉山中学区）の児童数の減少は、推定より5年から10年早く進んでおり、各小学校の小規模化が心配されている。保護者の不安にどう向き合っているか。

A 少人数の良さを活かした授業に取り組んでいる。政策として地域のダメージを考慮し統廃合は行わない。

Q 親世代は、平成22年のアンケートで、約70%が2から3クラス規模を希望し、統合はやむを得ないと回答していた。小中学校の小規模化が転出の理由となり、市長が進める子育て世帯の定住対策と逆行しているのではないか。

A 地域からは、統合反対の声があがっている。保護者から統合の希望があれば検討



市内全域で安心して子育てできる環境を

高橋菜穂子議員

する。

Q 市内の高校生の半数以上は、村山駅を利用して通学している。帰宅時の電車時刻に合わせたデマンドタクシーの運行で送迎の負担を軽減するような子育て支援はどうか。

A ニーズがあるか、検討してみたい。

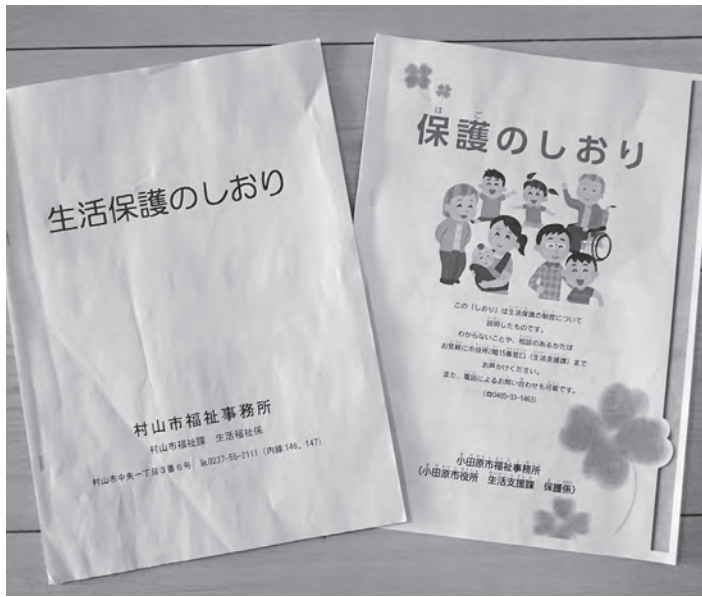
Q クアハウス拠点旧浴場の屋内遊戯施設構想が策定されたが進捗はどうか。

A 様々な角度から、検証中である。

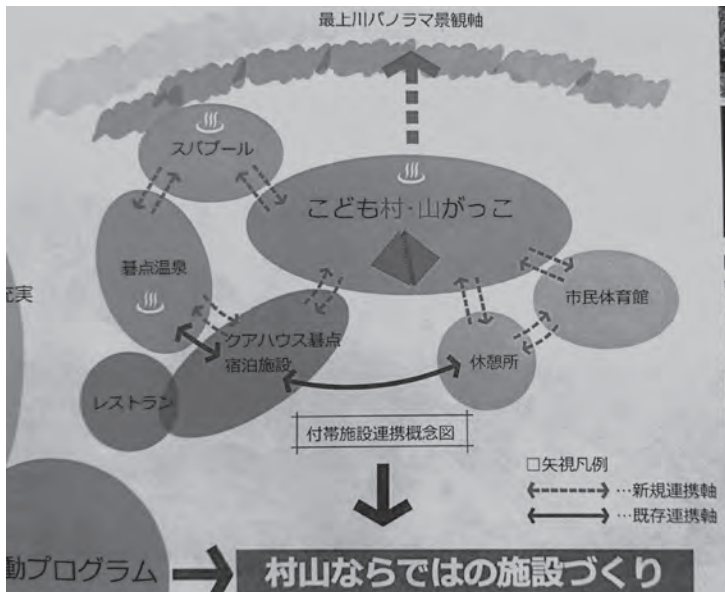
Q 市内の高校生の半数以上は、村山駅を利用して通学している。帰宅時の電車時刻に合わせたデマンドタクシーの運行で送迎の負担を軽減するような子育て支援はどうか。

A ニーズがあるか、検討してみたい。

Q クアハウス拠点旧浴場の屋内遊戯施設構想が策定されたが進捗はどうか。



生活保護のしおり



屋内児童遊戯施設構想より

※ホームページの略称

百問は一見にしかず!!

よりよい行政のための 視察 レポート

総務文教常任委員会

水道・下水道祭

11月16日

安心安全おいしい水を

大沢川上流の旧幕井貯水口の水神様にて市民に安心安全でおいしい水の安定供給を祈願しました。

新町三丁目にある下水道開通記念碑前で下水道祭を行いました。快適な下水道は昭和62年に村山公共下水道として使用開始されています。

その後、楯岡鶴ヶ町において、水道管の老朽配水管を耐震管に更新する事業と袖崎地区農業集落排水場を視察しました。



新町下水道開通記念碑

総務文教常任委員会

給食試食会

12月8日

給食は「力」の源

葉山中学校保護者の皆さんと、給食の試食会に参加しました。教育委員会管理課より献立の考え方と、地産地消の取り組みとして地元産大豆を使用した納豆の説明を受けました。試食の後、生徒の皆さんの給食の風景を見学し、コープ村山給食センターから、真空冷却器の使用と、食材の三度洗いの徹底により安全管理をしているというお話を聞きました。生徒の皆さんの健康とお手紙が作り手の皆さんのやりがいとなっているそうです。



12月8日の給食

議会報研修会

11月9日

市民の「聞きたい、知りたい」が重要

平成29年度の山形県市議会議長会議会報研修会が長井市の「はぎ苑」で開催されました。講師は山形新聞社、長井支社長の松田直樹氏で、「読んでもらえる議会報を目指そう」と題し、議会だよりの役割、何のために発行しているのかを意識した紙面づくりについて、そのために5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように）の原則、重要なことから先に書く逆三角形の紙面づくりなどのアドバイスがありました。また、見出しの付け方やレイアウトについての説明や見出しだけでも内容が分かるような工夫作りや、余白を生かすことが大事であるとの話がありました。その後、恒例の13市の議会報に対する具体的なチェックがあり、



講演する松田先生

本市の議会報には、リード文がないこと、概要の紹介や小見出しが少ないこと、一般質問には、質問と答弁、両方の見出しがあつた方が良いのでは、とのアドバイスがありました。最後に「市民の関心がどこにあるのか、自分が読者なら何が知りたいかを意識して書くことが重要」と強調し、「議会だよりは市民と議員をつなぐ窓で大切な意思疎通ツールである」と述べました。このたび、指摘された件を議会だより編集委員会にて検討課題とし、今後の紙面づくりに反映させていきたいと思えます。

「改革クワダ」行政視察

11月20日・30日

有害鳥獣対策

○山形市行政視察

近年、市街地におけるカラスによるフンや鳴き声の生活環境被害が増加。その対策として、生息数の1割を目標とした捕獲の実施と※1レーザーポインターの貸し出しによる市民単位での追い払いや天敵である※2ハリスホークを飛来させる実証実験を行っています。

その他にも、ドローン活用などによる新たな対策を実施。その成果として、広域育声シ



プロジェクターによるカラス被害対策説明

※1 レーザーポインター…光線を発する器類
※2 ハリスホーク…鷹科に属するもうぎん類



駆逐装置の説明

○村山市管内視察

STEMにより、①天敵
②天敵との争い③ねぐら入り、の順で天敵とカラスの鳴き声を流し、世界初のカラスの誘導に成功。また、ドローンに搭載したスピーカーから天敵と争う時の鳴き声を流し、カラスの集団に接近させ、反応を確認する実験も行っています。

村山産業高校の鳥獣駆逐装置は、約140度の放射角度・約40mの照射範囲で超音波を発生させるものです。ハクビシンへの効果が確認されており、今後市内での実証が期待されます。

総合福祉支援センター内の「わっしょい」では個人の能力向上のため、訓練や支援を、そして就職活動支援及び就職後の職場定着支援を行っています。いきいき元気館「いずみ」

障がい者支援充実へ



ふるさと回帰支援センター
山形担当海月さん(右上)

「おひさま」では心身の発達に心配のあるお子さんに対して遊びの中から適切な援助をして、生活力が身に付くように支援しています。楯岡特別支援学校には小中高一貫の教育や現場実習の機会を求めて広範囲から通学しています。現在100人強の在校生がいますが、毎年20人程度増加しており、今後の施設拡張も考えなければなりません。

子育て世代のUターン増加
○NPOふるさと回帰支援センター(東京)

市政・公明クラブ
行政視察
12月19日～21日

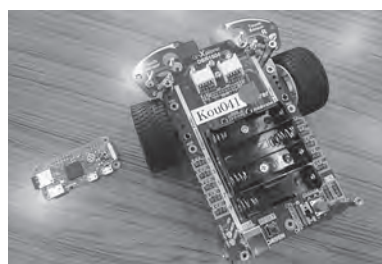
を整理することと独自の視点での政策の展開が移住者の増加につながることを、示唆して頂きました。

○長野県飯山市

これまで約300人が移住したという移住の人気の地である同市に移住して7年目となる中居正人さん(51歳)から、移住と新規就農者についてお話を伺いました。移住者の心得として、地域の活動に参加することも大切であるということ、三重県生まれなので雪は慣れて苦にならないと語られました。長野県が

○長野県飯山市

移住受入れ、新規就農者対策に力を入れており、里親制度を運用して145名が登録をして、新規就農者の指導に当たっています。飯山市では、29年度に、農業振興計画において、①担い手確保②産出額のアップを掲げ、農業研修センターを設置しています。その後、(有



授業に用いる教材「ロボレーブ」

全国に先駆けてコンピュータを活用するための「プログラミング教育」を、全小中学校で導入しています。教育委員会で教材や指導案を提供し、教員養成に力を入れています。体系的に実施しており、子どもたちが、積極的に学んでいます。

○石川県加賀市

イチムラにて、きのこ栽培による冬の農業について視察しました。
※IoT時代に向けて

一部事務組合議会議員

■東根市外二市一町共立衛生処理組合

議運委 大山 正弘
議員 茨木 久彌
議員 中里 芳之

■北村山公立病院組合

副議長 長南 誠
議運委 海老名 幸司
議員 川田 律子
議員 高橋 菜穂子

■北村山広域行政事務組合

議長 森 一弘
議運委 石澤 祐一
議員 菊池 貞好

■山形県後期高齢者医療広域連合議会

議員 秋葉 新一

議会運営委員会

12月22日付けで正副委員長が交代になりました。

委員長 中里 芳之
副委員長 結城 正

※あらゆるモノがインターネットでつながる

市民の声



星川 忍さん (西郷)

みなさんは「女性消防団」をご存知でしょうか。村山市では、現在、各地区より集結した28名の女性消防団員が活動し、結成してから



春の大演習の分隊行進



救急救命の講習会



広報誌の編集会議

19年が経ちました。春には消防大演習、冬には消防出初式に参加していますので、見かけたことがある方もいらっしゃるかと思います。

女性消防団の活動は、各種消防式典への参加、防災訓練での応急手当の指導、火災予防の広報活動、広報誌の発行などがあり、みなさんの安全を願って活動しています。

春の消防大演習は、桜が満開の東沢公園で行われ、同時に七色放水も行われますので、ご家族でぜひ一度ご覧ください。

最後に、私たちは一緒に活動して下さる団員を募集しています。興味のある方は、各地区の女性消防団までお問合せください。一緒に地域の安全を守っていきましょう。

〈表紙写真〉

富本小学校の5年生は、毎年、地域に伝わる伝統芸能の「大黒舞」に取り組んでいます。

30年以上の伝統を持つ伝承活動として、富本地域の詳しい方にご指導をいただきながら、毎年6月から練習を始めています。何回も練習を積み重ね、10月に基点で行われた村山市伝承館祭り、長板そば祭りへの参加をスタートに学校の学習発表会、PTA収穫感謝祭、富本芸能発表会、地域敬老会、福祉施設訪問などで踊りを披露しています。

大黒舞は、地域の五穀豊穡を願い、福をもたらし、豊かで平和な暮らしをもたらしてくれることを願って、子どもたちによって踊り伝えられています。踊りを通して、子どもたちがたくさんの人たちとふれあい、喜び、そして学んでいくことを願っています。

ふるさとに愛着を持つ子どもたちが育つことをうれしく思います。



みんなの知識

市議会のしくみ

常任委員会って？

現在、村山市議会では、「総務文教常任委員会」と「産業厚生常任委員会」の二つがあります。それぞれ担当する課の予算や決算を詳しくチェックしたり、事業内容について議論したりします。また、条例を改正する際や請願が提出された際、その審査を行います。

あとがき

新年明けましておめでとうございます。改選により議会だより編集委員も新たなメンバー構成になりました。より身近で手にとってもらえる議会報にして「分かりやすさ」「興味深い内容」にさらに取り組んでまいります。ぜひご感想やご意見をお寄せください。

委員長 秋葉 新一
副委員長 川田 律子
委員 石澤 祐一
高橋菜穂子
菊池大二郎
矢萩 浩次
犬飼 司

